甲斐の金山から　平成17年１月21日　第31号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

輝かしい新年を迎えました。湯之奥金山博物館８年目の新春です。

毎年、大きな夢をもって新年を迎えますが、その夢の多くは着実に実を結んでいます。その内容は「館だより」や新聞紙上で多くの館活動が紹介されてきたとおりです。

今年の抱負は私たちが日常的に掲げている「博物館は地域活性化の拠点」としての博物館活動にさらに一層磨きをかけることです。町村合併ということで「身延町」は大きくなり、魅力も三倍増です。

その合併の相乗効果が確かに引き出せる、また結果が残せる新たな博物館活動を今年は発信します。

職員一同気を引き締めて取り組みますが、身延町全町民の皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

世界遺産登録と富士川流域王国

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長　谷　口　一　夫

はじめに

湯之奥金山博物館は、およそ15～17世紀の200年間、それは戦国時代～江戸時代にかけて、身延町湯之奥で操業していた湯之奥中山（国指定史跡）・内山・茅小屋３金山（総称して湯之奥金山）のガイダンス館として運営されていますが、その内容は日本の金山全般に及ぶ視点で展示構成され歴史事実を伝えています。

博物館は地域活性化の拠点です

この金山博物館は、ガイダンス館という画一的な展示や運営だけでなく多面的な「活性化の拠点的施設」としてのプログラム展開をしています。

博物館は私立、市町村立、県立、国立など運営母体が違っても、門戸は広域的に開放されている施設です。

実はここが大変重要なところなんです。町立といえど全国から、あるいは外国からも来館者が訪れるところ、それが博物館と考えて下さい。

従って博物館はそれぞれ館の個性を世に出すため広域的に情報を発信する施設でもあるわけです。積極的に情報発信することによって、多くの来館者が全国から来ます。来れば地域に経済効果が出ます。

地域活性化プログラムの提案

さて金山博物館では、現在、広域的な館外活動を行っています。いずれも地域をどう活性化させるかのプログラム展開です。

ハブでつながる県博と湯之奥金山博物館

県立博物館（県博）は、今秋開館しますがハブ博物館という機能を持ちます。ハブの考え方は、県博の展示テーマと県下各地に残された歴史の現場と結びつけるものです。例えば身延町には金山遺跡と金山博物館がありますから、金山の学習ニーズに十分応えられる対応を県立博物館と金山博物館は連携して行うというものです。歴史テーマの数だけ県下各地とつながり、その地域へ人を誘導する効果が出ます。

ハブの一館である金山博物館はさらに峡南地域の地域ハブ館として地域に残されている文化遺産を発掘することが可能です。

湯之奥金山遺跡の世界遺産登録運動

国指定史跡・湯之奥中山／黒川金山（甲斐金山）を中心にスタートした運動ですが、国指定史跡・佐渡相川金山遺跡（佐渡金山）、国指定史跡・黄金山産金遺跡（陸奥金山）などの既に国指定史跡になっている金山遺跡が連携して「東国の金山遺跡と黄金文化」（黄金の国ジバング）という括りで世界遺産に登録しようという運動です。いま全国学会のシンポジュウムや金山博物館の公開講座において、世界遺産登録に向けた学術的な裏づけや、歴史的な整合性や根拠など構築中です。世界遺産登録運動が起こせるレベルの歴史遺産が身延町湯之奥にあるということを知って頂きたいと思います。

富士川流域王国

山梨県の広域的観光地といえば「富士山麓」であり「八ヶ岳山麓」です。しかし「富士川流域」という素晴らしい観光資源が眠っています。

これまでの身延山久遠寺、下部温泉、西山温泉といった「点」の観光から、広域的な「面」の観光地化を考えたいものです。

面で「富士川流域dreamツーリズム」を考えることで、四万十川以上の夢のある観光地化が目指せます。

富士川流域には、本・支流含め、素晴らしい自然遺産、文化（歴史）遺産、産業遺産が無尽蔵にあります。これに着目し、広域的な「観光プログラム」「学習プログラム」を真剣に考える場として「富士川流域王国」という夢空間を共有したいものです。

いま道州制が議論され始めました。私は大賛成です。物事を小さくみて、袋小路に入った議論を繰り返していても何の発展もありません。

県でも市町村でも財源の問題を抱える今こそ、市町村単位の壁を突き抜けた観光行政で将来を見つめたいものです。

またやがて中部横断高速道が開通する時代がきます。この富士川流域に魅力が無ければ通過地帯になってしまう恐れがあります。

それに広域的に対応する手段として、山梨県第３の観光地として「富士川流域王国」を確立する必要があるわけです。

来る、２月27日（日）には、富士川dreamをテーマに、第１回富士川王国シンポジウムが開かれます。多くの皆様の参加を期待しています。

富士川流域王国

観光立県山梨の『新ステージ』

山梨の3大観光地として「富士山麓」「八ヶ岳山麓」「富士川流域」の確立を

山梨を流れる富士川とその上流域をくくる「観光王国」の樹立を提案します

⇩王国への入口◆中部横断道南アルプスIC　　⇩王国への入口◆中央道南甲府IC

釜無川　　笛吹川

＊ 勅使川扇状地(地形形成・利水・治水の学習拠点

国史跡・石積出し/将棋頭

甲府盆地展望台□

●信玄堤(治水遺構)(世界に通じる治水遺跡)

●霞堤(治水遺構)

甲斐の八珍果○

サクランボ狩り○

南アルプス春仙・桃源美術館□

増穂美術庵□

嘯月美術館□

富士川

□風土記の丘公園

□県立考古博物館

□とよとみ道の駅

□歌舞伎公園・三珠の湯

□市川・代官所跡(要調査)

□市川和紙/碑林公園

安藤家住宅□

鰍沢/舟運河岸遺跡●

かじかの湯※

大 柳川渓谷(新緑と紅葉)＊

なかとみ現代美術工芸館西島和紙の里□

凡例
＊自然　□文化施設　●歴史
○産物&産物売店　※保養施設

県立クラフト・パーク□

下山・煙硝蔵遺跡●

下山の館●

南アルプス邑早川諸金山遺跡●

西山温泉●

南アルプス連峰・早川渓谷＊

赤沢の宿●

七面山＊

観光特区/日蓮宗総本山・身延山久遠寺●

JR身延駅・しょうにん通り□

身延町総合会館□

ゆばの里みのぶ□

道の駅とみざわ○

天神堂遺跡●

○神明の花火

○六郷・手彫り印鑑

※つむぎの湯

□三枝きもの資料館

□本栖湖(5千円札・新千円札)撮影地

⇦王国への入口◆本栖湖

＊ 下部いろは坂(もとす道/新緑と紅葉)

□木喰上人誕生の地と木喰微笑館

○道の駅しもべ

●千二百年の湯治場(下部温泉郷)

●松葉杖供養祭・やまめ祭り

●国史跡・湯之奥金山遺跡(世界遺産登録運動中)

□国重文・門西家住宅

□甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

＊ 毛無山など百名山

○竹炭

□市川家住宅

●南部の火祭り

●南部氏館

●雁堤(治水遺構)

⇧王国への入口◆国道52号　　⇧王国への入口◆JR身延線富士駅
(身延線王国30駅の旅)

広域的な地域活性化の「観光商品」としての「国づくり」構想です。

活　動　報　告

町の文化協会水墨画展開催　　9月30日～10月19日

町文化協会の会員による芸術の秋ならではの「水墨画展」が、博物館多目的ホールを会場に公開されました。

墨の特性を十分に活かした力強い絵や、薄墨の繊細な線による風景画や静物画などそれぞれ個性豊かな作品が約30点ほど展示され、多くの来館者にご覧いただきました。

平成16年度　公開講座始まる　　10月～

かねてからお知らせしておりました公開講座が11月から始まっています。10月は異例の台風騒ぎで予定していた講義が、今年の３月に延期されましたがその後は順調に開催されています。

『産金技術と金がもたらしたもの－世界遺産登録へ向けた「黄金の国ジパング」の深層を探る－』という大テーマのもと、初回となった10月の講演会では法政大学名誉教授の村上直氏より「江戸幕府の天領政策と鉱山経営～金銀山は天下のやま～」というお話をいただき、２回目は筑波大学名誉教授の田中圭一先生に「日本の大開発時代を考える～佐渡、石見、甲斐、人と文明の交流～」について、各回ともそれぞれの専門的な立場からの切り口でお話いただきました。次回は１月22日㈯静岡大学教育学部教授・文学博士の小和田哲男先生にお話いただきます。

また３月までの日程は次のとおりです。多くの皆様のご聴講をお待ちしております。

『産金技術と金』がもたらしたもの

～ 世界遺産登録へ向けた『黄金の国ジパング』の深層を探る ～

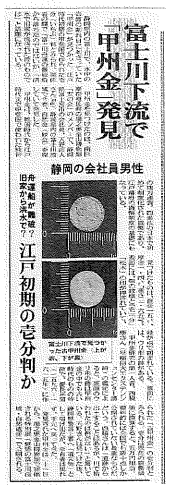
第38回	1月22日㈯ 武田信玄の駿河進攻と甲斐・駿河の金山 静岡大学教育学部教授　文学博士　小和田　哲　男（静岡）
第39回	2月 5日㈯ 産業遺産としての日本の金銀山　－石見銀山の世界遺産登録をめぐって－ 独立行政法人奈良文化財研究所主任研究官・学術博士　村　上　　隆（奈良）
第40回	3月 5日㈯ 自然遺産・文化遺産の保護と活用　－世界遺産のあり方を考える－ 千葉大学名誉教授　工学博士　㈶日本自然保護協会理事長　田　畑　貞　寿（東京）

第８回　特別展開催　　10月21日～１月11日

10月から開催されていました第８回特別展「富士川流域の自然遺産と富士川発見の古甲州金展」が好評のうちに終了いたしました。

今回はキーワードを“富士川”として、富士川流域で採取された砂金やナゲット、そして峡南広域行政組合の協力により、地元のアマチュアカメラマンの皆さんが撮影された富士川流域・峡南地域の自然風景を約30点展示いたしました。

今回のメイン展示である富士川下流域から発見された古甲州金の壱分判については、古甲州金が落し物、もしくは出土資料として発見された前例が無かっただけに（※新甲州金は前例あり）資料的価値は高く、その奇跡的な発見は新聞各紙でも取り上げられ、また関連資料の砂金やナゲットに「こんな大きい金が川にあるの？」と見た人は皆、同様の疑問を口にし、また写真についても「こんな幻想的な風景が残っているんですね」と感嘆の声を漏らしていました。


富士川下流で「甲州金」発見
静岡の会社員男性
江戸初期の壱分判か

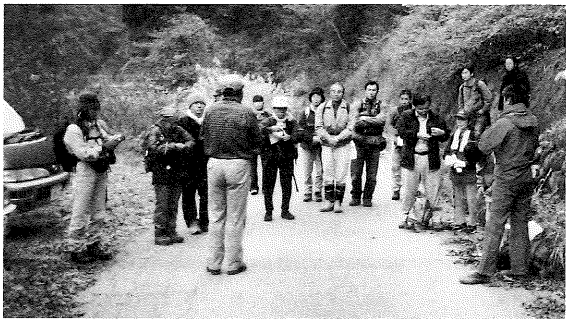
平成16年10月18日付
山梨日日新聞より

中山金山遺跡見学会　11月14日(日)

11月14日の日曜日、秋の遺跡見学会を開催いたしました。今年の見学地は湯之奥・中山金山遺跡。開催日の前後が天候不順で実施が危ぶまれた今回ですが、ちょうど天候の合間に当たり無事開催することが出来ました。ここ数年は博物館事業として中山金山に行くことが出来なかったので久しぶりのことです。

館主催の中山金山遺跡見学会では一番広いテラスを見学して下山するというのが通常の見学コースですが、今回はそのテラスよりさらに上方に位置する大きな露天掘り跡と坑道を見学するというロングコースをとりました。

この日の見学会に参加した方は総勢23人。昭和山岳会の協力も得て、登山前の心得や準備などの諸注意を受け、万全の態勢で臨みました。

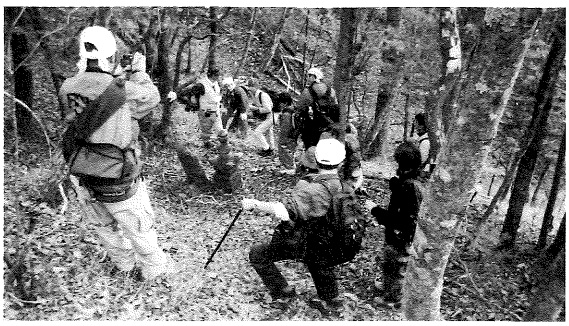


事前に説明を受ける参加者たち

暑くも寒くもなく登山に適した曇りの気候だったのが幸いし、参加者の中からは「これが夏で酷暑の中の登山だったら辛いかもしれない。曇りでよかった」という声も多く聞こえました。

登山道から遺跡までの道中はおよそ片道1時間半。休憩時間を多く取ってはいましたが、いつもよりも大分速いペースで登り、予定よりもやや早く「地蔵峠」まで全員が登りきりました。地蔵峠はその眺望の素晴しさから登山者の休憩ポイントとなっています。残念ながらこの日は曇りだったため富士山の稜線がかすかに見える程度でしたが、その富士山をバックに記念撮影もしました。富士山は雲に隠れて全部は見えなくても、麓を一望できるこの場所での昼食は登山の疲れを少し和らげてくれたようでした。

昼食で一息入れて再出発。ここからさらに一時間ほどかけて、露天掘り跡と坑道を見学しましたが、坑道までの道はほとんど残っておらず、薮こぎで進むような状態。また道の険しさから、



遺跡や遺物をじっくりと観察

遺跡で待機するグループと坑道を見学するグループと二手に分かれましたが、坑道見学組はそんな薮こぎ状態が楽しいと、まるで子供の頃に返ったように石を拾ったり落ち葉を掻き分けたりしながら進んでいきました。

一通りの見学を無事に済ませ、待機班と合流した午後2時30分頃、参加者はなかなか名残り惜しそうでしたが、山中で暗くなっては大変ですから下山に向かいました。登りよりもはるかに楽な帰り道は1時間半ほどで全員が山を下り、博物館へ到着することができました。

館の事業でも久しぶりに行った中山金山遺跡、大きい台風がいくつもきた年でしたが、大きな変化がなかったことは幸いでした。参加者の皆さんからいただいたアンケートも全員「行って良かった」という回答で、また全員目的地まで無事に登り無事に帰ってくることが出来、大変有意義な事業となりました。なお参加者に下部の温泉旅館の関係の方がおり、今回の参加者の方々に温泉で疲れを癒していってほしいというご好意もいただき、有り難くお受けいたしました。

次年度も新たな遺跡見学場所を選定し、見学会を開催いたしますので楽しみにしていてください。

全員で記念撮影。写真では富士山がかすかで見えない…

ネコザ編み教室　12月12日(日)

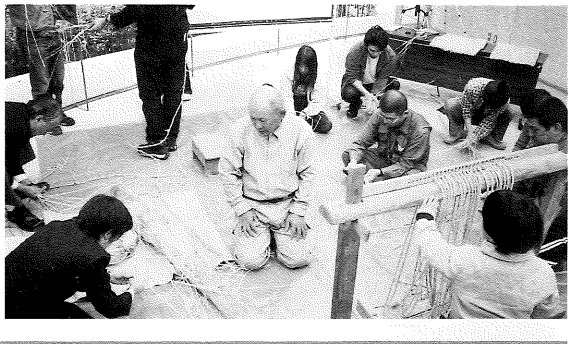
この週は土曜日は公開講座、そして日曜日はネコザ編み教室とイベントの週末でしたが、この「ネコザ編み教室」には県内外から15人の参加者が集まりました。

“ネコザ”とは藁で編んだ莫蓙のようなもので、砂金採集具の一つです。現在でも大規模な砂金採掘坑が残っている身延町大城には昭和初期に使用されていたネコザが現存し、この資料は現在博物館で保管収蔵しています。この残されていたネコザの編み方が普通の筵や莫蓙とは異なり、非常に複雑な編み方をしています。現在はその技術が途絶えていましたが、この編み方を復元してくれたのが今回の講師である松井弘光さん（町内・常葉在住）でした。

一口に“ネコザを編む”といっても、まず縄をなうことから覚えなければなりませんが、参加者は全員、縄をなう経験のない世代です。器用にするする編んでいく松井さんに対し、参加者は悪戦苦闘。藁の継ぎ足しも慣れなければ難しいものですが、それでもやっていくうちに動きを手が覚えてきたようで、はじめよりも大分形の良い縄が出来上がりました。

縄のない方を覚えたところで、今度はいよいよ編み方です。縦糸を通した編み枠に束にした藁をロープ状によじりながら交差に編みこんでいくのですが、縄のない方以上に複雑で、これも何度かやってみないと覚えられない難しさがありました。

それでも午前中のうちに基本的な編み方を皆がマスターし、午後からはそれぞれ好きなロープで小さなネコザを編み上げました。事業終了後、参加者からは「藁で何かを作るということもすべて初めてのことだったのでとても面白かった」という感想を多く聞くことが出来ました。



新潟中越地震募金集まる

新潟中越地震により多くの人が大きな被害を被ったことは誰もが知るところですが、金山博物館でも被災者の方々のお役に少しでも立てればということで、受付に募金箱を設置しました。約１か月設置した募金箱には、ご来館いただいた方々の善意で約6,000円の金額が集まりました。

この募金は山梨厚生文化事業団に送らせていただき、地元の復興の一助に加えていただきました。ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

夜間イルミネーションを見にきませんか？　12月～２月末

現在、博物館駐車場は夜間（夕方５時～午後10時まで点灯）のイルミネーションがにぎわっています。これは地元温泉郷の湯町青年部のメンバーが地域を活気付けようと企画したもので、先般、地元山梨日日新聞にも取り上げられ、評判を呼んでいます。

アスレチック木造舟型遊具の「わんぱく丸」の外形を形取ったり、駐車場の大きな欅のラインを浮かび上がらせたりと、闇に浮かぶ約３万個の電飾が幻想的な雰囲気を醸し出しています。このライトアップは２月いっぱいまで楽しむことが出来ますので、お近くにお越しの際は是非ご覧になって行ってください。

誌上博物館　－シリーズ その21－　24金＝純金

ものを数えるということ、大きさを数値で表わすことがいつから始まったのかは定かではありませんが、一説には商業が起こり始めた頃とも言われています。その単位に、穀物の重さや体積が基になることがよくあります。それは宝石や貴金属などのような貴重品を重さで取り引きするような場合、皆の共通の概念となるような普遍的な単位を求めた時に、穀物などの普遍的なものを基準にすると便利だというのがその理由の一つです。ただ、穀物の実の大きさや重さなどを基準にするといっても、実一粒、種一粒では重さが小さすぎるので、複数集めた重さを基準としたのです。

このような穀物を単位とした例は幾つもあります。例えば、古代の重さの最小単位である「黍」はまさにあのキビからとられていますし、西洋の重さの単位「グレーン」もまた、麦がもとになっています。

さて、金の純度・品位を表わす「カラット」にも同じような由来があるのですが、そもそも現在使われている「カラット」という単位には二つの意味があります。

まず貴金属や宝石の質量を表わす単位で真珠以外の宝石について１カラットは200mg＝0.2ｇという重さを示しています。ですから“10カラットのダイヤモンド”と言ったらそのダイヤモンドは２ｇの重さを持っているということになるのです。

もう一つは金の純度・品位を表わしています。

表記上、スペルは［karat］または［carat］ですが、単位の性質が異なるため、宝石のカラットは［carat，ct］とし、金の品位を表わすカラットは［Karat，Kt］と書き分けることが慣例となっています。

例えば指輪やネックレスなどに［18K（K18)］と打刻してありますが、音読するときには“カラット”とは言わず、［○○ケー］とか［○○きん］などと言い、打刻されている［K］の文字は［Karat］の頭文字の［K］を採っているのです。よく「金」をローマ字表記すると「kin」だからその頭文字である「K」をつけたのだろうと勘違いされることもありますが、そうではありません。

［18K］という表記が何を意味しているかというと、これは素材の金の純度、つまりそのアクセサリーに使われている合金全体の重量の中で純金が重さでどれくらい入っているかを表わし、金の純度は75％であるということを示しているのです。なぜ18Kが純度75％かと言うと、二十四分の十八が純金という意味で18／24＝0.75という計算式が成立するからです。つまりそのアクセサリーの75％は純金で、残りの25％は別の金属が混ざっているということを示しています。この計算式は、十進法に慣れている今の私たちには少し複雑に感じられるかもしれません。ちなみにアクセサリーなどの金の純度表記には、18金＝75％なので［750］というように、1000分比が使われ打刻されることもあります。

では何故「24」という数を基準にしたのでしょうか。その由来を紐解くには歴史をずいぶん遡ることになります。

もともと「カラット」とはその語源を「いなご豆」という植物からとっています。アラビアでは「キラット」、「キラト」、イタリアでは「カラート」、ギリシャでは「ケラーティオン」と地域によりその発音は異なりますが、すべてこの“いなご豆”のことです。いなご豆はアラビアからアフリカ辺りに生えているマメ科の植物で、その実はおよそ１粒200mg、かつてアジア東部での商取引の際に天秤の重さなどに使われていました。当時の金塊の重さの取引基準が24個分のいなご豆の重さであった名残りから、24カラット（24K）が純金を表すようになったと言われています。

ちなみに国際的に純金として認められるのは純度99.95％以上に精製されたものですが日本では99.99％以上の純度を保った金を24K＝純金と表示して良いことになっています。鋳型に鋳込んで固化したものを“インゴット”と言いますが、９が４つ並んで打刻されているのをよく見かけるかもしれません。一般に“フォーナイン”と呼ばれますが、これは金の純度が99.99％であることを示しています。（学芸員・小松美鈴）

参考文献『ゴールド四代記』（田中貴金属株式会社1991 刊）
『金属の百科事典』、『貴金属』他

館からのお知らせ

親子映画観賞会

恒例の親子映画観賞会を開催いたしましたが、11月27日の「ブラザーベア」の上映会には合併後「身延町」となって初の映画会ということで周知範囲も広がったことから、大勢の方が来てくれて満席での開催となりました。また12月は23日の祝日に合わせて「シュレック２」を上映し、こちらも多くの人に楽しんでもらえました。

次回日程は次のとおりとなります。また詳しい映画会のお知らせは管内小中学校に配布するチラシなどで周知しておりますので、こちらもチェックしてください。

次回映画会：

平成17年１月22日(土)　午後６時～

平成17年３月30日(水)　午後１時～

昔の仕事を実践してみよう　～わらじ作り教室～

昔は誰でも作れた「わらじ」。そんなわらじ作りを体験して昔の技術を学んでみませんか？

期日：平成17年２月20日(日)　午前10時～正午まで　　**場所：**湯之奥金山博物館多目的ホール

定員：10人（対象・小学生以上）　　※参加料無料

博物館日誌（平成16年10月～12月）

10月

1日(金)　下部文化協会水墨画展開催～10月21日まで

5日(火)　豊富小遠足

7日(木)　小笠原小遠足

9日(土)　台風22号接近のため臨時休館

15日(金)　『館だより30号』発刊

19日(火)　湯田小遠足

21日(木)　第8回特別展「富士川流域魅惑の自然遺産展」開始～17年1月11日まで

22日(金)　ＪＲ職員研修

23日(土)　ＪＲ職員研修２日目

29日(金)　上野原平和中・富士宮中　県外学習

30日(土)　第２回富士川流域王国会議

11月

6日(土)　教育フォーラム　於久那土中、館長講演

10日(水)　館内清掃・館内機器メンテナンス

13日(土)　第36回公開講座・講師　村上　直氏

14日(日)　秋の遺跡見学会・湯之奥中山金山

15日(月)　消防施設点検

19日(金)　丹波山金山調査団、黒川金山遺跡踏査

20日(土)　丹波山金山遺跡フォーラム

21日(日)　資料報告会出席

西八代郡スポーツ指導者協議会

中山金山遺跡見学会

25日(木)　久那土小6年課外授業

26日(金)　富河中課外授業、ＮＰＯ取材

27日(土)　親子映画観賞会

28日(日)　古文書・木製資料燻蒸処理

30日(火)　クリスマスツリー飾りつけ

12月

2日(木)　資料燻蒸処理完了。身延山大学生課外研修

4日(土)　電飾の飾りつけ

9日(木)　県立博物館交流拠点形成事業

身延町史蹟めぐりツアー

11日(土)　第37回公開講座・講師　田中圭一氏

12日(日)　ネコザ編み教室、温泉郷青年団電飾飾りつけ

14日(火)　下部小3年訪問学習

18日(土)　第3回富士川流域王国会議

26日(日)　大掃除・門松作り

27日(月)　仕事納め

編集後記

花屋さんに行くと季節を問わずいつでも色とりどりの綺麗な花が並んでいます。でもやはり季節の花というのはあるわけで、菊は10月から11月にかけての気温差に負けず健気に咲く花の代表格。写真は地元の依田良平さんが育てたもので、約１か月間、来館者の目を楽しませてくれました。

さて、早いもので新年も半月以上が過ぎました。お餅も食べ飽きて正月気分もすっかり冷めてきたので、元旦に立てた抱負にのっとってそろそろ活動を始めないと。さしずめ今年の干支・酉にちなむと…啄木鳥のようにコツコツと…かな？

博物館だより　第31号　平成17年１月21日

〒409-2947　山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先　甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

博物館HPアドレス　http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html